

気象コラム(1)

今月から数回にわたり、気象の簡単な話を連載することになりました。
忙しくて連載を休むこともあるかもしれませんが、少しの間おつきあいください。

第1回目は、気温の変動についての話です。

テレビなどの天気予報でよく使われる言い回しで、「今日は4月中旬並みの気温でした。」など、「〇月並み」ということを耳にするとと思います。これは、最高気温などが平年の気温よりも高かったりした場合に使われているようです。例えば、4月に「今日は4月並みの気温でした。」とは言いません。3月にしては暖かかった場合に、「4月並みの気温でした。」というふうにして使われています。

では、逆に、その月らしい気温の日って実際にどのくらいあるのでしょうか？

下図は2016年3月の松本市の最高気温をグラフにしたものです。



斜めの太い線は、およその平年の気温です。

こうして見ると、平年並みの気温（言い換えれば3月らしい気温）の日というのは、1か月の中に10日もなかったことがわかります。20日以上は「4月並み」であったり、逆に「2月並み」であったり、3月にしては暖かかったり寒かったりしました。このようにして、日々の大きな気温変動を繰り返しながら、季節が進んでいきます。

GWも季節の変わり目の真っただ中です。4月や5月らしい気温の日よりも、初夏のような暑さを感じる日か、寒気が入って冬に逆戻りしたような寒い日のどちらかになることの方が多いと考え、計画を立て装備を準備するようにしましょう。

(高田和孝/H.C.teruru)